



2019 10月 須坂高校 たより

臥龍魂
熱・意気・かり

☆フリートーク第3弾(10/4)

クラスマッチの表彰の準備時間を利用して、新執行部三役が実施したフリートーク。クラスマッチの感想を言いあってから、クラブや生徒会を2年生で引退するという学校長の提起に対する意見を生徒たちは出しました。発言は延べ16人(生徒14人、教員2人)。15時から始まったフリートークは40分続きましたが、発言は途切れることはありませんでした。先輩への思い、クラブ活動で学んだことや思い出、感謝の気持ち、同好会を立ち上げたけど十分に活動できなかったことへの後悔などがたくさんたくさん語られました。「今スマホいじっている人いないですよ!」と2年生の発言に一瞬凍りつく3年生。でも3年生の二人が最後に経験をもとにした素敵なメッセージを後輩たちに残してくれました。「先生たちの意見を聞きたい!」。緊張の走る教員傍聴席。教員MとAが教師代表で参戦。生徒からは拍手!須坂高校に新しい歴史の扉が開いた瞬間でした。



クラスマッチ楽しかった人?は〜い!



2年生



1年生に拍手喝采



学年関係なく堂々と発言



教員も



3年生からのメッセージ

☆秋季クラスマッチ(10/3, 4) 恒例の須坂体操で始まり、お菓子と賞状でにっこり!



男子バスケットボール

女子バスケットボール

卓球

バドミントン

サッカー

優勝 3-6

優勝 1-1

優勝 3-4

優勝 2-2

優勝 3-4

総合優勝

3-4

2位 3-6

2位 2-2

4位 3-3

5位 2-4

6位 2-3

全校平和人権講演会(10/17)

平和人権学習の一環として、全校平和人権講演会がありました。講師は中華人民共和国新疆ウイグル自治区のご出身で、現在は上田市にお住まいのウマル・ムニレさんです。外国人から見た日本の社会、外国籍の子どもや保護者への支援、外国人として望むこと等について50分間お話しを頂きました。偏見や先入観を持たないこと、多様性を受け入れ、一人一人違うことを楽しむこと、相手に興味を持つことの大切さなどを、様々なエピソードをもとに、お話ししていただきました。講演終了後にも、1年生から3年生まで何人もの生徒がウマルさんに質問にきていました。丁寧に対応していただき、本当にありがとうございました。



真剣に聴き入っている様子



講演会後の座談会



「今日の講演会で、外国の方への接し方を改めなければならないと思いました。ウマルさんは、丁寧な日本語で話しているのに片言の日本語で返されるのは悲しいとおっしゃっていました。確かに、自分が初対面の外国人と話す場合、「日本語は話せないだろう」という身勝手な先入観を元に片言の日本語や英語で話してしまうでしょう。そういうことが、外国の方々に悲しい思いをさせてしまっていると知りました。「先入観を持たない」ことだと思いました。先入観をもっていると偏見や差別が生まれてしまうからです。今回学んだことを、将来を担う私たちが活かしていくことが大切だと思いました。」

「今回1番強く感じたのは、日本人も外国人も、全て等しく人であることです。どちらが正しくて、どちらが間違いなんて、そんなことないんだと、みんなに等しく礼儀を重んじる大切さを感じました。自分の中の価値観が変わっていったのは、間違いありません。言語というのは、一見大きな壁に見えるかもしれませんが、相手を思いやる気持ちがあれば、簡単に超えることができる、自分はそう確信しました。」

「まさか、講師の先生がウイグルの出身だとは思わなかったので、非常に驚いた。人生で初めて、直接ウイグル出身の方のお話を聞くことができたので、講師の先生に深く感謝したい。「身近な外国人に対して興味、関心を持ってほしい」と講師の先生は何度もおっしゃっていた。本当にその通りだと思う。単一民族で構成された日本という環境で長く生活してきた我々日本人は、自分たちにとって異質な存在、たとえば異なる文化背景を持つ外国人に対して、そっけない反応をしてしまいがちだと思う。そこが、日本がここまで独自の文化を発展させることができた要因の1つでもあると感じている。しかしそれでも、現代において孤立主義を貫くことは難しく、異なる存在であると見なされてきた人たちに、光を当てるべき時ではないかと感じた。本人にとっては非常に回答しにくい内容を含めた質問に対しても、詳しく回答していただき本当に嬉しかった。自分の興味がさらに拡大されていく感覚を覚えた。大変有意義な時間であった。寛容性を大切にしていきたい。」